

事業名	図書館奉仕費			調査番号	100
細事業名	交流促進・にぎわい創出事業費	財務コード	227810		
担当部課室	教育委員会 部	社会教育 課	社会教育振興 担当 (内線)	8357	

I 事業の概要

実施期間	始期	H24 年度	～	終期	年度
実施主体					
目的	だれ(何)を対象に	その対象をどのような状態にして			結果、何に結びつけるのか
	図書館を利用する県民	互いの情報を交換することにより、思いがけない出会いや交流が生まれるとともに、新たな情報を得る機会が提供されている。			県民の交流を促進し、地域のにぎわいを生み出す。
内容	<p>○多彩で魅力あるイベントや講座を開催する</p> <p>①館長企画事業(年3回:7月・11月・2月、著名な作家等による講演会)を実施</p> <p>②主催及び諸団体との共催による朗読会・お話し会、異文化交流、コンサート、映画上映会、健康セミナー、法律相談、子育て・絵本読み聞かせ等の様々なイベントを開催</p>				

II 事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

区分	指標	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31(R1)年度	R2年度	
活動指標	図書館企画事業参加者数	目標	12,459	8,000	8,300	10,500	8,909	9,544	10,179
		実績(見込)	8,393	8,256	10,327	8,274	8,378	9,544	
		達成率	67.4	103.2	124.4	78.8	94.0	100.0	
		達成区分	c	b	a	c	b	b	
成果指標	募集定員数の多い館長企画事業(作家等の講演会)における参加者満足度	目標	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0
		実績(見込)	92.5	96.3	96.6	99.5	97.5	96.0	
		達成率	115.6	120.4	120.8	124.4	121.9	120.0	
		達成区分	b	a	a	a	a	a	
決算(予算) 単位:千円		1,084	1,017	1,142	995	696	918	867	

III 事業の評価(平成30年度の業績評価)

活動指標	b	評価	参加者の満足度が高水準を維持しており、多くの県民に活動・交流の場を提供することで、交流の促進、にぎわいの創出が図られている。
成果指標	a		

・「活動指標、成果指標の達成率」から事業の活動量、成果に係る一次評価の考え方を記載すること。
 ・指標がない場合や指標を補足する必要がある場合には、指標によらない成果を用いて記載すること。

IV 見直しの必要性(令和2年度に向けた改善等の考え方)

県関与の必要性	判定	<input checked="" type="checkbox"/> 必要性が高い	<input type="checkbox"/> 必要性がある程度認められる	<input type="checkbox"/> 必要性が低い
	説明	<input type="checkbox"/> 社会経済環境の変化により、当該事務事業が解決すべき課題が増えている、増えることが予想される <input checked="" type="checkbox"/> 事業の拡大や充実を求める意見・要望が増えている <input type="checkbox"/> 法令等により、県が実施することが義務づけられている <input type="checkbox"/> 県が実施しないと、県民生活に深刻な影響が生じる <input type="checkbox"/> 民間が実施した場合、現在のサービス水準を維持することが、収益性や技術面で困難である。 <input type="checkbox"/> その他 ()		
有効性(成果向上)	判定	<input type="checkbox"/> 大幅な成果向上が可能	<input checked="" type="checkbox"/> 成果向上が可能	<input type="checkbox"/> 成果向上はあまり望めない
	説明	利用者からの様々な要望に応えることにより、事業への参加者数がさらに増加して、県民の交流を促進し、地域のにぎわいを生み出すことができる。		
見直しの余地	判定	<input type="checkbox"/> 見直す余地がある	<input type="checkbox"/> 見直す余地がある程度ある	<input checked="" type="checkbox"/> 見直す余地がない
	説明	<input type="checkbox"/> 民間委託や指定管理者制度の活用など事業手法の見直しの余地がある <input type="checkbox"/> 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある <input type="checkbox"/> サービスの対象、水準、内容を見直す余地がある <input type="checkbox"/> 実施体制(事業間・組織間の連携や事務分担など)を見直す余地がある <input type="checkbox"/> 投入したコストに見合った効果が現れておらず、効果向上やコスト削減を検討する余地がある <input type="checkbox"/> その他 ()		
その他	説明	館長の人脈の活用や、外部の諸団体及び館内ボランティア員との連携により事業を実施することにより、必要最小限の経費で参加者の満足度を高水準で維持している。		
見直しの必要性	無	参加者の満足度が高水準を維持しており、今後も成果向上が可能である。		

V 見直しの方向(令和2年度当初予算等での対応状況)

実施方法等の変更	説明	セミナーについては、図書館利用団体等と連携して実施することにより経費の削減を図ることとした。
----------	----	--

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、IV見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること。見直しがない場合は「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること。